

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 そだち園		
○保護者評価実施期間	R6年10月1日		～ R6年12月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	R6年10月1日		～ R6年1月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	R7年1月24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・母子登園できること	母子で過ごすことで、子どもの状況を一緒に確認することができ、成長も一緒に喜ぶことができる。その都度アドバイスしている。	親子関係の再構築。母子の日にできること、単独の時にできることをしっかり押さえておく。
2	・幼稚園や保育園と同じような流れで生活している。	保育を中心に考えている。子どもの生活・あそび・表情を作ることを意識している。	生活リズムを整えること。(家庭の中までは変えられない)
3	・個別支援計画に基づいて活動プログラムを行い、集団の中で個別的配慮を行っている。	集団生活を意識しながら、その中で個々に合わせた支援を考えている。専門家のアドバイスを取り入れている。	保護者への伝え方。 職員研修

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流	なかなか都合が合わせるのが難しい。いつもの公園で保育所の子どもたちと一緒にいることは多いが、関わりは少ない。	保育所との連携。また、そだち園としても、環境を整える必要がある。
2	環境問題(園庭がない)(備品の置き場)	限られたスペースで遊具を出し入れしたり食事、制作など工夫して行っている。	近くの公園へ出かけ、発散する時間は設けている
3	委員会・研修の実施	他と比べて職員の人数が少ないので、センターのように計画通りには行かない時もある。	オンライン研修を活用し、短時間で学べる機会を作る

	公表	保護者等からの事業所評価の集計結果
--	----	-------------------

事業所名	そだち園
------	------

公表日 令和7年 1月 24日

利用児童数 令和6年 12月 13日 14名 回収数 9名

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	7	2				天気の良い日は公園に行くなど工夫している
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	9					
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	7	2				希望があればその都度環境を設定している
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	8	1				部屋数が少ないのでその都度用紙片づけをする
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	9					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	9					
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	9					
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	8	1				保護者の希望と本人の状況をみて設定している
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	9					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	9					
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	4	4	1			近くの保育所の行事に参加させてもらっている
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	8	1				入園児に丁寧に説明している
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	9					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	8			1		毎月1回保護者会学習会を開いている
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	8	1				母子登園に園での様子や家の様子を聞いている
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	8	1			定期的だが、個別の頻度は少ない。	
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	9					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	9					
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	8	1				
	20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	8	1				
	21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	9					
22 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	9						
23 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	7	2				見やすいところに掲示している。	

常時等の対応	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	8	1				避難訓練を定期的に行っている。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	9					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	9					
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	9					
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	9					
	29	事業所の支援に満足していますか。	8	1			先生の数は多いが連携が取れてないことが多い	毎日のミーティングで連絡事項を確認している

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	そだち園		公表日 令和7年1月24日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9		その場に応じて遊具を出している。遊具は季節に応じて入れ替えている。	物の置き場に困っている。収納のあり方を検討する。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9			1対1対応児が多いので、ボランティアさんも来てくれることがあり、助かっている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9		各部屋（支度・活動・給食・相談（検査））の使い分けがきちんとされている。床面はフラット。角コーナー滑り止めマットの活用している。	収納のあり方を更に検討していく。また感染予防として加湿や喚起を徹底している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9		子どもの活動に合わせた空間作りをしている。また、全部屋に空気清浄機（加湿器）を設置している。	老朽化が目立ってきたが、日々消毒や安全確認をしながら子どもにあった環境を考えている。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9		集団活動の部屋と個別指導の部屋があり、定期的に個別指導で使用している。	個別指導は定期的に行っている。また、子どもからの要望があれば、その都度対応している。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9		ミーティングを行っている。このほか月3～4回の会議を行っている。	よりスムーズに活動ができるよう、前日に次の日の予定や役割分担等の確認を行っている。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		29年度より保護者評価を実施している。このことにより業務改善につなげている。	日中の活動の中ででてきた意見などを職員間で共有し、業務改善につなげていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		H29年度より事業所評価の取り組みを開始したので、今後も継続していく。	ホームページ以外の通信等を使った周知の仕方を検討していく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	9		外部評価に代わって専門職（家）に普段の様子を見てもらい講評を受けている。	第三者評価に代わるものとして専門職の参加をお願いしている。今後ともより充実できるように配慮していきたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	9		H29年度より法人内研修を行っている。月1回の園内研修と外部研修などの機会を設けている。昨年度より委員会が発足した。	個人の研修については自主的に受けていくことが目標。また、虐待研修など職員全体周知の研修に関してはサポートを活用している。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9			
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	9		発達検査及び日々の状況の記録、及び保護者からの聞き取りをベースにして計画を作成している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9			
	14	児童発達支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9		年間保育計画と個別支援計画の並行性を図りながら支援を行っている。	支援計画に沿って実施できるような計画内容及び項目になるよう更に検討していく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9		検査（太田ステージ・新版K式・田中ビナー・感覚プロファイル・KIDS）等を行い、各年度1回心理士、保護者と確認を行っている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9		ガイドラインに基づき7領域（生活・運動・認知適応・言語社会・家族支援・地域・保護者連携）で支援計画を作成している。太田ステージ検査の結果を反映させ、具体的な到達目標・方針を設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9		保育計画・反省会議、指導会議（行事計画）等で話し合いがされている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9		年間保育計画に基づいたプログラムを作成している。今後とも季節感・興味・関心が出る活動をしていく	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	9		一人ひとりの違いに応じて、柔軟に計画を作成している。	定期的に個別指導の時間を設け、子どもの状況を確認している。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9		打ち合わせや、ホワイトボード等にて常に確認できるようにしている。	ボードは職員以外にも保護者も見られるようになっている。また、子どもには絵カード等で活動の流れが分かるようにしている。

	21	支援終了後は、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9		毎日ミーティングを行い、情報交換及び振り返りと改善点についての話し合いをしている。	日誌記入事項を中心にミーティングをしている。特にヒヤリハットについては全職員の周知を徹底している。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9		全体の保育（業務）日誌及び毎日の個別記録、月のまとめ（要点記入）を行う事で業務改善につなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9		保育計画・反省会議（月1）ではその都度気になる園児対象で行い、全体では10月に中間評価を実施している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9		必要に応じて担当職員が出席するようにしている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9		子育て相談課、障害福祉課等かかわりのある課所との連携を図っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9		必要に応じて随時。	当園としては希望しているが、先方の都合によることが多いため、実施が困難になる傾向がある。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9		毎年引継ぎを行っている。	支援級においては当園としては希望しているが、先方の都合によることが多いため、実施が困難になる傾向がある。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	9			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	9			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイスや助言等を受ける機会を設けているか。	9		必要に応じて連携しながら指導助言を受けている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	9		R01年度より近くの保育園との年長児を対象とした交流を設けた。また、夏休み等は兄弟の参加を可能とし、交流の機会を設けている。	保育所より毎年夏祭りへのお誘いがあり、参加させてもらっている。今後も交流の場を増やしていきたい。兄弟にも保育参加をしてもらい交流の機会を増やしていきたい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9		母子登園制のため、日常的に同じ場面を見ることで共通理解を図っている。	
保護者への説明等	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9		月1回保護者会学習会を実施している。学習会では子ども理解を中心に具体的な内容で行っている。又、専門職により講話も行う。	OB保護者による講話もあり、卒園後の具体的な話を聞く良い機会なので続けたい。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9		見学时、入園・進級式(同日)に説明を行っている。玄関に運営規程をファイルで掲示している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9		支援計画作成前に事前に子どもの状況や希望などを記入してもらう書類があり、それをもとに作成し、説明をしている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	9		前期・後期と2回あり、年長児については終結という形で3回行っている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		職員及び専門職により個別面談を定期的に行うと共に、卒園した保護者からの相談(メール・面談)にも対応している。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	9		月一回保護者会を開催している(園長参加)。また、母子登園の日の昼食は母たちだけでとってもらっている。行事等には兄弟の参加も可能としている。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9		母子登園制の中で日常的に話し合う機会がある。又、必要があれば、適時面談を行っている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9		保育計画及び日々の活動予定表を配布及び年4～5回園だよりを配布(主に行事報告掲載)又、保護者会でも情報を発信している。	さらに情報の周知を図るため、SNS(LINE等)の使用を進めていく。

非常時等の対応	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9		法人の個人情報取り扱い規程に準じている。又、毎年進路希望調書を提出してもらう際に個人情報取り扱いの承諾をもらっている。	顔写真等については写真掲載承諾書を含めて承諾を得ているが、今後さらに内容の検討をしていく。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9		園児については絵カードや音楽などを活用している。保護者とはSNSやTEL、登園時に直接伝えるなどして様々な方法を活用している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に関われた事業運営を図っているか。	9		近隣の方には行事前に挨拶をしている。又、日常の場面で来園はなかなか機会がない。	
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9		必要に応じて壁に「おしらせ」として掲示し、注意喚起を促している。定期的に訓練を行っている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9		年2回の避難訓練等を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9		てんかん発作等には、入学希望調書において確認している。又、服薬に関するファイルを作成しいつでも確認できるようにしてある。	てんかんを学ぶ為にてんかんの研修を受講するようにしている。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9		該当なし。保護者の判断に応じて対応している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9		日誌に項目を設け、日々の記録と合わせて、直ぐに閲覧できるようになっている。このことにより職員が情報を共有している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9		研修を受け、さらに園内会議の中で研修内容を報告し、実践している。法人としても委員会があり虐待防止に努めている。	定期的に園内研修の場を設けていけるように検討していく。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	9		具体的な事例はないが、支援計画説明の際に保護者に説明するようにしている。	